

10th 東大阪大学
Anniversary

こども学部 開学10周年

東大阪大学開学 10 周年 記念式典・記念シンポジウム

東大阪大学

【第 1 部】

記念式典次第

開式の辞

理事長式辞

学長挨拶

来賓祝辞

来賓紹介

閉式の辞

【第2部】

記念シンポジウム

これからのこども学への期待

一日中の模索と課題から

コーディネーター：吉岡眞知子（東大阪大学副学長）

通訳：趙 夢雲（東大阪大学教授）
方 明生（上海師範大学教育学院教授）

報告者：麻生 武（奈良女子大学大学院教授）
陳 永明（上海師範大学教育学院院長）
李 燕（上海師範大学教育学院学前教育学科主任）
李 林慧（上海師範大学教育学院附属幼稚園園長）
方 明生（上海師範大学教育学院教授）

企画の趣旨（吉岡 眞知子）

本学は、2005（平成17）年「上海師範大学と学術交流に関する協定書」を締結し、教員間の学術交流や学生間の相互交流を進めてきました。2006（平成18）年上海師範大学主催で「日中幼児、初等教育の比較」をテーマにシンポジウムが開催され、両大学の学術交流が進められました。

本学からは「こども学部設置の趣旨や、こども学とこども研究センターの位置づけ」を含め、本学が求める「こども学部」の内容を、各専門領域（文学、心理学、教育学）から発表しました。

2012（平成24）年「第2回こども学国際シンポジウム」が上海師範大学主催で開催され、中国、台湾におけるこども学の展開について各専門領域から数多くの研究発表がなされ、本学からは、「こども学と教員養成の関係」、「アジアこども学科とこども学の関係」について発表しました。

一方、報告者の麻生先生は、本学開学1周年記念講演会講師としてご講演いただき、「こども学」を展開するうえでの貴重なご示唆をいただきました。

今回は、このような経緯をもとに、日中間でのこども学の動向や、今後のこども学研究の方向性をご専門の立場から発表していただき、これからのこども学研究と、こども学部への可能性を明らかにしていきたいと考えます。

なお、中国語の通訳に趙先生、日本語の通訳に方先生をお願いしておりますが、時間の関係で日本語のみになる箇所もあることをご了承願います。

「日本と中国の幼児教育の共通点と相違点」

麻生 武 (奈良女子大学大学院教授)

人間が哺乳類のなかの優等生であるのは、他の哺乳類より「遊びをよく知っており」「遊ぶのが得意だ」ということです。「遊び」という態度は、哺乳類の成体が幼体に対する態度から生まれてきたというのが私の説です(麻生,2010)。哺乳類は子どもに乳を与え、子どもを可愛がり養育します。子どもを可愛く感じるのです。ヒトは、哺乳類の中でもきわだって未熟な赤ん坊を産み、しかもその赤ん坊が想像を絶するほど長い子ども期を送るのです。ヒトは子どもを可愛く感じ、子どもの遊び相手をしてしまう存在です。また、子どもの方も、大人がそのように遊んでくれることを喜びます。そして、子どもが楽しそうにすれば、大人はますます嬉しくなるのです。とても母親だけでは育てられないような未熟な赤ん坊を、なんとか相互扶助で育て生き抜いてきたこと、そこに今日のヒトのルーツがあるように思います。子どもたちが「遊ぶ」という態度を身につけることも、ヒトが育児を継承して行くためにとても大切なことです。子どもは年長者に遊んでもらうことから、次に、幼い子どもと遊んでやること、そして、仲間同士で遊ぶことを学んで行きます。

ここで日本と中国の幼稚園のことを考えてみたいと思います。観察対象になったのは日本のN大学附属幼稚園と、天津の第一級幼稚園です(これは天津からの留学生で私の指導学生の後期博士課程の楊静さんの研究です)。2つの幼稚園の社会学習・環境学習の取り組みを比較してみたいと思います。どちらの幼稚園の先生たちも子どもが可愛くて、子どもと「遊ぶ」という態度を基本的にとっていると思います。これは、遊んでもらっている2つの幼稚園の子どもたちの楽しそうな生き生きとした表情から分かります。しかし、大きな相違点もあります。日本のN附属幼稚園では、子どもができるだけ多く自主的に取り組むことが奨励されています。仲間同士で遊ぶこと、年少者の遊び相手をしてやるのが大切にされているのです。天津の幼稚園では、期待されていることが少し違います。天津では、子どもが責任感をもった、一人前の役割存在(社会的存在)になっていくことを、子どもたちが夢みるように教育がなされています。大人になることが、子どもたちにより可視的になることが配慮されています。[麻生武 2010 遊びと学び 佐伯 胖(監修)・渡部信一(編)「『学び』の認知科学事典」pp.128-145.大修館書店]

日中幼儿教育之异同

人所以能成为哺乳类中的“高材生”，乃人较之其他哺乳类动物更懂得“玩耍”，更善于“游戏”。本人一贯认为，“游戏”之形态，源于哺乳类成体对幼体的溺爱。哺乳类哺育并关爱自己的后代，深为孩子的“可爱”而陶醉。人类所产婴儿，在哺乳类中明显羸弱，其成长，需要漫长的岁月，其间，孩子周边的成人，无疑为孩子绝佳的游戏伙伴。而孩子，也为成人乐于同自己玩耍而欢欣，成人则因孩子的愉悦而欣慰倍增。一个幼小的婴儿，单凭母亲个人的能力，很难茁壮成长，社会的协作与互助，才是孩子成长不可或缺的环境。从这里，我们似可窥出当今人类的渊源。孩子习得“游戏”之本领，又相关人类之代代相传。孩子先以成人为玩伴，继而引导较自己更幼小的孩子，在小伙伴间的玩耍中掌握游戏的方法。

在此以日中幼儿园的形态作一对比。考察对象为日本 N 大学附属幼儿园与天津的幼儿园（源自本人所指导的中国天津博士课程留学生杨静之研究）。比较这两所幼儿园的社会学习和环境学习，从孩子欢快的表情，可以看出两所幼儿园的教师，对孩子都是爱护有加，负责地引领孩子游戏。但我们也注意到，日本的幼儿园更多地鼓励孩子自主游戏，更着重孩子间的游戏以及同年岁更小的孩子的游戏。反观天津的幼儿园，显然有所不同。天津的幼儿园有意识地引导孩子将来成为有责任感的合格的社会成员，侧重于未来“长大成人”的教育。

中国における子ども学再建の意義

陳 永明 (上海師範大学教育学院教授, 学院長)

こどもに関する探究が深化され、こども学という学際的学科の開設の動きが世界各国で見られる今日、こども学の再構築は中国でも重視されている。無論、こども学の再構築は関連する学術研究を深める必要もあるが、より重要なのは行動である。即ち、着実な教育実験である。

1. 教育学博士課程として構築される「こども学」

2010年、上海師範大学教育学専攻が申請した教育学博士課程は許可され、「こども学」は新興学科として博士課程の枠組みに組み込まれた。21世紀に入り、人類の発展の過程に於いて、こどもに関する諸問題は益々教育学が直視しなければならない重要な課題となり、方法論の考え方として、各方面の力を動員して学際的こども学を構築することは、教育学科発展のテーゼで学科発展のための新しい思考でもあると認識している。

2. 教員養成教育の重要科目としての「こども学」

上海師範大学は教員養成を特色とする高等学府である。2010年来、教員養成科目の1つとして「こども学」の構築に力を入れている。定められた目標は以下の3つである。

- (1) こども学学科の枠組みの構築
- (2) 教育学院全学生を対象とする必修科目の「こども学」の開講
- (3) 「こども学」を研究及び教学するためのチームの構成。

こども学学科建設の研究討論は、教員の教育研究の重要な理論基礎であると同時に、上海師範大学の教員養成科目建設において堅実で新たな一步を踏み出すことをも意味している。

3. 国際視野と国内事情を結合させ、時代と共に歩むこども学

中国のこども学研究は国際交流を通じて発展してきた。日本との交流もその重要な一環である。上海師範大学がこども学に対する関心は、東大阪大学との交流からも由来する。2006年、両学が学術シンポジウム「中日幼児教育・初等教育の比較研究—こども学の創立」を共催し、その後、両学の教員と学生の相互交流を通じて、上海師範大学教育学院の教員たちはこども学の専門科目の体系及び履修モデルを研究し、科目の新規開講によって次第にこども学の理念を教員養成に応用してきた。また、科研も申請して、二か所の実験幼稚園の運営等によって、一連の研究成果を確立することができた。2012年、教育学院は、「第二回こども学国際シンポジウム」と「社会・家庭・教育と児童トップ論壇」を相次いで主催した。

東大阪大学は日本初のこども学を開設した大学で、今年は創立十周年を迎えます。10周年記念日に際し、衷心よりお祝いを申し上げますと共に、貴学の一層の発展を祈念し、両学の学術交流の深化を期待したいと存じます。

中国：重建儿童学的意义

简要

在当今世界各国致力于发展儿童研究，构建综合学科“儿童学”的背景下，中国十分需要重建儿童学。儿童学的重建需要大力推进相关的学术研究，但更重要的是行动——扎实的教育实践。

1. 作为教育学一级博士点构建的新兴学科之一“儿童学”。

上海师范大学教育学专业 2010 年申报教育学专业一级博士点。作为博士点构架的学科之一，我们将“儿童学”置于二级新兴学科位置。我们认为进入 21 世纪的人类发展的过程中，儿童问题的突显成为教育学必须面对的重大课题。作为方法论上的思路，调动各方力量，构建学科综合的“儿童学”是教育学科发展的重要命题和学科发展的重大创新思路。

2. 作为教师教育学科群内涵建设的重要项目的“儿童学”。

上海师范大学是以教师教育为特色的大学。2010 年以来“儿童学”是我院教师教育学科群内涵建设中的一个项目，达成三个重要目标：(1)奠定“儿童学”学科建构的基本框架；(2)先开出一门面向教育学院全体学生的“儿童学”必修课；(3)组织好“儿童学”研究及教学的团队。“儿童学”学科建构研讨不仅是教师教育研究的重要理论基础，也标志着上海师范大学教师教育学科群内涵建设又迈出实质性一步。

3. 作为注重国际视野和本土运作结合并与时俱进的“儿童学”。

中国儿童学的研究是在国际交流中发展，与日本学界的交流也是很重要的一部分。上海师范大学对儿童学领域的关注，在一定程度上得益于和日本东大阪大学的相互交流及启示共识。2006 年两校合作举办“中日学前，初等教育的比较研究——CHILD SCIENCE (KODOMOGAKU) 的创立”学术研讨会，随后两校师生多次互访。我们通过全面了解日本儿童学专业课程体系，培养模式，学科研究，逐步把儿童学的理念，要素渗透到师范生培养，开发课程，申请纵向项目，主办两个实验幼儿园，形成了一批研究成果。2012 年，我们先后举办了第二届儿童学国际研讨会，“社会·家庭·教育与儿童高峰论坛”。

东大阪大学是日本最早开设儿童学专业的大学，今年迎来了 10 周年的纪念日。在 10 周年纪念日来临之际，请允许我送上对贵校儿童学专业发展的由衷的祝贺！并祝愿贵校在未来发展中取得更大的成就。期待着我们两校的学术交流更上一层楼。

上海師範大学就学前教育の発展

李 燕 （上海師範大学教育学院学前教育学科主任，教授）

2002年に設立された上海師範大学の就学前教育学科は、2003年から本科生と修士課程生を募集し、2012年に博士課程を設置した。10年間の教学と研究の蓄積によって、本学の就学前教育学科は、本科生1000人余り、修士100名、博士1名を世に送り出し、同専攻において、中国国内の大学では、上位15位以内にランクされ、現在、教授3名、副教授6名、博士8名の教員陣を擁している。

本学科は、以下の4つの研究方向を持っている。

1. 子ども社会性発達と教育方向…主に子どもの感情と社会性発達、社会教育、親子関係と子どもの発達、家庭と地域社会教育等を研究対象とする。
2. 子ども言語発達と教育方向……主に子どもの言語能力発達、子どもの言語能力発達に対する教育の影響、子ども言語教育、子どもの言語能力発達における絵本の役割等を研究対象とする。
3. 子ども教育理論研究方向……主に各種の子ども教育の理念、子ども教育における哲学の諸問題、子ども教育のカリキュラム理論等を研究対象とする。
4. 子ども芸術教育方向……主に子ども芸術教育の理論・方法・芸術教育実践、子どもにおける絵画の変遷、子どもの音楽感性とその発達、子どもの芸術鑑賞能力及び芸術教育とその他の子ども発達の関連事象を研究対象とする。

上海师范大学学前教育的发展

我校的学前教育专业2002年正式成立，2003年开始招收学前教育专业的本科生和硕士研究生，2012年开始招生博士研究生。经过近10年的发展，本学科专业成为在国内排名前15名之内的专业。目前已培养本科生千余人，硕士研究生百余人，博士生1人。目前本学科共有教授3人，副教授6人，博士8人。

目前，本学科现有四个研究方向

1. 儿童社会性发展与教育方向：主要研究儿童情感与社会性发展，儿童社会教育，亲子关系与儿童发展，家庭与社区教育等
2. 儿童语言发展与教育方向：主要研究儿童语言能力的发展，教育对儿童语言能力发展的影响，儿童语言教育，绘本在儿童语言能力发展中的作用等
3. 儿童教育理论研究方向：主要研究儿童教育的理论取向，儿童教育的哲学问题，以及儿童课程理论等
4. 儿童艺术教育方向：主要研究儿童艺术教育的方法，路径和艺术教育实践，研究儿童绘画发展，儿童对音乐的敏感性及其发展，儿童的艺术欣赏等领域，研究艺术教育与儿童发展其他领域的关系等。

子どもの健康と幸せにつながる教育の研究と実践

— 付属幼稚園が就学前教育における機能 —

李 林慧 （上海師範大学教育学院付属幼稚園園長）

上海師範大学教育学院附属閔行実験幼稚園は、上海師範大学、上海閔行区教育局及び閔行顯橋鎮政府三者によって2011年2月に設立されたもので、クラス12、幼児341名、教職員53名を擁している。上海師範大学の「子ども発達と教育研究」、「就学前教員養成」の研究基地の機能をも備えている付属幼稚園の1つである。

健康で、幸せな子どもを育てると同時に、実験幼稚園では教育研究と実践を結びつける紐帯として、上海師範大学教育学院学前教育学科の学科建設に、以下の3つの面において、重要な役割を果たしている。

1. 学術研究のための実験基地を提供する。
2. 学科建設のための実践基地を提供する。
3. 教学発展のための対外交流の窓口を提供する。

关注儿童健康与幸福，架通教育研究与实践

— 实验园在学前教育学科建设中的作用 —

上海师范大学閔行实验幼儿园是由上海师范大学、上海閔行区教育局以及閔行顯橋鎮人民政府三方合作举办的公办幼儿园，于2011年2月正式开办。实验园现有两个园区，12个班级，341名幼儿和53位教职员工，是上海师范大学儿童发展与教育研究基地与学前教师专业发展研究基地。

实验园以“绿色教育”为办园理念，主张通过多元、适度、优质与创新的教育实践，让儿童在早期发展的过程中发现最好的自己，展现蓬勃的生机，实现可持续发展，从而孕育未来的希望。

在培养健康、聪慧与美乐儿童的同时，实验园架通了教育研究与实践之间的桥梁，在上海师范大学学前教育学科建设中也发挥着重要的作用，主要包括以下三个方面。

1. 为学术研究提供实验基地
学前教育学科的发展离不开对幼儿各领域发展规律与教育策略的探索。实验园一方面为儿童发展与教育领域的学术研究提供对象，场地与设施设备等实验条件，另一方面，实验园教师对研究的共同参与保障了研究发现对教育实践的指导价值。
2. 为学科课程建设提供实践基地
上海师范大学以培养具有国际视野的、卓越的学前教育教师为目标导向，着力于教师教育培养模式改革，课程与教材建设以及教学实践能力的提高。通过大学教师下园践习项目，大学-幼儿园教师联动项目以及大学-实验园在线共享课程等途径，实验园为大学教师开展课程与教材建设提供了实践基地，使其在积累大量教育教学案例的同时，能够从职后的教育实践现场发现职前培养中的问题，从而改进课程与教学。
3. 为专业发展提供对外交流的窗口
在不同层面的学术交流中，学科的发展状况能够获得展示，而与其他学术团体的互动能有效地打开我们的学术视野，促进学科的发展。实验园的教育实践活动能够从不同的角度展现我们的儿童观，学习观与教育观，因而成为我们对外交流的窗口，通过接待来自四面八方的来宾，获得有益的意见与建议，促进学前教育学科的健康发展。

人間科学の一部としての子ども学

方 明生 (上海師範大学教育学院 教授)

子ども学は人間科学 (human science) の下位学科と位置づけることができると思う。本論は以下の4点を述べたい。

1. 上海師範大学教育学院の研究グループが編集した『子ども学概論』(北京大学出版社 2013年5月)は中国での子ども学の構成の試みである。教師教育を念頭に編集したこの著書は国際教育の視野に立ち、子ども学を展望しながら、子どもにかかわる教育、政策、保健、栄養、心理、環境などの分野の基本と進展を述べ、また子どもに繋がる哲学、文学、科学、造形、音楽、遊戯などの分野での基本と研究を多岐にわたり論述を展開し、教師教育の一科目として今後の大学専門教育の中に入れてたいと考えている。この中で日本の、とりわけ東大阪大学の子ども学研究が大いに参考になった。
2. アメリカの人間発達 (human development) 学科の教材『A Child's World』(Diane E. Papalia, Sally Wendkos Olds, Ruth Duskin Feldman. *A Child's World Infancy Through Adolescence* (11th Edition) [M]. McGraw-Hill Book Company. 2008)は30年あまりにわたり改訂し続けた結果、子どもを見る事典のような存在となり、また研究学習のスキルを開発し、子どもを巡り勉強している学習者にとってたいへん参考になり、子ども研究の基本を見てもいいと思う。
3. 浜田寿美男の『子ども学序説』にも触れた生物学者ユクスキュルの「環世界」説に触発され、ドイツ系の哲学人間学はシェーラー、プレスナー、ゲーレンなどの研究者によって展開された。それ以来、哲学などの学問分野で哲学人間学は幅広く研究されたが、人間に深くかかわっている子ども研究や教育研究の領域でこのような学説の浸透はむしろ遅れていると考える。今後、ドイツ哲学人間学の成果を含む人間学の研究を子ども学に導入すべきではないかと考える。
4. アリエスからの子ども・家族社会史の研究は、常に歴史的人口動態を念頭に子ども観を巡る変動の社会的バックグラウンドをとらえている。2012年に本学で開催された「第2回子ども学国際シンポジウム」で私は中国の20世紀の子ども・家族社会史の課題に触れたが、その人口動態の21世紀の近未来を展望すると予測可能な範囲内で大きな変動があると言われる。まとめてみると、(1)世界人口が人口爆発から人口減少へと変動する予測、(2)東アジア型の合計出生率がこの地域の特徴を反映している、(3)中国国家统计局が公表した中国の合計出生率データは、全社会に鳴らす警鐘である。

作为人类科学下位学科的“儿童学”

“儿童学”可以作为人类科学（human science）下位学科确定其位置。本论题主要谈以下几点：

1. 上海师范大学教育学院“儿童学”研究团队编写的《儿童学概论》（北京大学出版社,2013年5月）是中国的儿童学建构的一次尝试。本书以教师教育为基本立脚点，立于国际教育的视野，在展望儿童学整体的同时，论述了与儿童相关的教育，政策，保健，营养，心理，环境等领域的基本与进展，讨论了与儿童联系的哲学，文学，科学，造型，音乐，游戏等领域的基本与研究，希望作为教师教育中的一个科目进入大学专业教育中。本书的编辑得到了日本，尤其是东大阪大学的儿童学研究的很多启示。
2. 美国“人类发展”学科教材《儿童世界》（Diane E. Papalia, Sally Wendkos Olds, Ruth Duskin Feldman. *A Child's World Infancy Through Adolescence* (11th Edition) [M]. McGraw-Hill Book Company,2008）经过持续30多年的修订，已经成为了儿童研究的经典。教材中开发的研究学习技术，对儿童问题的学习者具有十分重要的参考价值，可以成为儿童研究的基础。
3. 受生物学者尤克斯奎尔的“环世界”说（浜田寿美男的《儿童学序说》曾涉及）的触发，德国哲学人类学，通过舍勒，普列斯纳，格伦等人的研究得以展开。但这样的学说较少渗透到与人深刻相关的儿童研究与教育研究中来，今后应当将包含德国哲学人类学在内的人类科学的研究成果，作为基本理论导入到“儿童学”中来。
4. 阿里埃斯以来的儿童·家庭社会史研究，以把握历史人口动态为背景的儿童观变迁之社会变动为基本内容。2012年在本校举行的“第二次儿童学国际研讨会”上，笔者提到了中国21世纪的儿童·家庭社会史的课题。展望21世纪不久的将来，这种历史背景下的人口动态将在可预测的范围内发生很大变化。可以从以下的数据看人口动态的未来动向：(1)预测：世界人口将从“人口爆炸”到“人口减少”，(2)东亚地区的总和生育率（TFR）的类型反映了这一地区的特征，(3)中国国家统计局公布的中国总和生育率（TFR）的数据应该在全社会敲响警钟。



東大阪大学

〒577-8567 東大阪市西堤学園町 3-1-1

TEL.06-6782-2824 FAX.06-6782-2896

<http://www.higashiosaka.ac.jp/>